

## ELC 語学研修 事後レポート

### 初等教育教員養成課程

入学前から留学に興味があった私は、海外研修の説明会や留学の説明会にはほとんど参加していたが、「これ!」というものがなかなかなかった。また、行きたいと思ってもお金や日程の都合で参加できずにいた。だから、この研修を知ったときにぜひ参加したいと強く思った。しかし、平日はずっと授業、さらにクラス分けがあると聞き、一気に弱気になった。私は自分の英語、特に発音とリスニングに自信がなく、行きたい気持ちと裏腹に「自分だけ一番下のクラスだったら」とか、「全く聞き取れなくて自分だけ授業についていけなかったら」というマイナス思考に陥っていた。グズグズ迷っていた私は誰かに背中を押してほしかった。そして ELI の太田さんに相談した。すると太田さんは「苦手なことをできるようにするために行くのよ」と言ってくれた。また、説明会の日が誕生日ということもあり、「自分に自信が持てるようになるためには何か新しいことを!」と思い、その場で参加申込書に名前を書いて提出。親には事後報告だったけれども、以前から留学したいと言っていたのですんなりと許可してくれた。そして事前研修が始まった。全く知らないマレーシアのことを調べることはとても楽しかったが、自分がそこに行くという実感は全然なかった。8月になり、あと数日で出国というときになっても全然準備は進まず、気持ちだけがマイナスな方向へと進んでいた。「授業が難しかったら」「もし何か危ないことがあったら」。そんなことばかり考えていたため、準備が完了したのは当日の朝だった。

いよいよ研修が始まった。全然話したことがなかった友達もこれから3週間ほどのくらい仲良くなれるのかな、と思うと少しワクワクした。期待と不安を抱えてマレーシアに到着。最初は「3週間って長いなあ」と思っていたが、始めてみると本当にあっという間だった。あんなに不安に思っていたテストも授業も、乗り越えることが出来た。平日の授業も休日の観光もとても楽しかった。先生やクラスメイトの聞き取りにくい発音は、自信になった。外国にいるという高揚感からかもしれないが、気づいたら自分から様々な人に英語で話しかけていた。

この研修後、私はラグビーワールドカップのボランティアに参加し、たくさんの来場者を案内する仕事をした。その際に自分から外国人に声をかけたり、英語で案内したりすることが出来た。以前は、自分の発音にも文法にも自信がなかったが、きれいな英語ではなく伝えようとする気持ちを大事にするようになって、英語を使って話すことを楽しいと思うようになった。自分の英語が伝わった時のうれしさを知ってもっと話すことが出来るようになっていたいと思った。

この研修に参加して、今までいろんなことに自信が持てなかった自分を少しだけ変えることが出来たように感じる。あの時勇気を出して申込書に名前を書いてよかったと思う。行ってみないと、やってみないと分からないことはたくさんあるし、時には悪い結果になるこ

ともあるかもしれないが、そこからまた先につながっていく。よく「挑戦することが大事」という言葉を耳にするが、それを強く実感した研修だった。研修に参加できたことを心からありがたく思う。

自分の今後の課題としては、さらに英語の勉強をして、いつか長期の留学をしたいと思っている。また、大学在学中に今回のような短期の研修にも再び参加したい。今回は親からの援助があったが、一緒にマレーシアに行った友達の中には自分で工面した人もいた。私も次回参加するときのために貯金をし、自分のお金で参加したい。そのことがさらに自分の自信につながるだろう。

今回の語学研修で多くの人と関わる機会があったが、ここでは授業での会話と charity home での関わりについて述べようと思う。

まず、KDU の授業は勿論すべて英語で行われた。レベル別にクラスが分けられたため、自分と同じくらいの英語力の人が集まっているだろうと思っていたが、実際に授業に参加してみるとクラスメイトは流暢に英語を話せていてとても驚いた。最初はこのような状況にためらい、なかなか自分から話しかけることができなかった。しかし、周りの生徒が積極的に話しかけてくれたり、授業の内容について教えてくれたりしたお陰で、all English の授業にも慣れることができたし、一緒にご飯や遊びに行くまでに仲良くなることができたと思う。クラスメイトと話している中では、警察官になるために英語を学びに来たという話や、IELT という難しい試験を受けるために勉強しに来たという話などを聞き、自分も強い意志を持って頑張らないといけないなあと刺激を受けたり、お互いの国について紹介し合っただけで様々な国のことを知ることができたりして、有意義な時間を過ごすことができたと感じている。また、授業の先生ともたくさんコミュニケーションを取ることができた。英語の訛りや話すスピードの速さで聞き取りづらいこともあったが、とても面白い先生で授業を楽しみながら、プレゼンテーションのやり方や文法などを学ぶことができ、少しは自分の英語力を向上させられたのではないかと思う。

次に、charity home では、多くの子どもたちと関わった。2歳ごろの子どもたちはまだ会話ができず、コミュニケーションを取るのは難しかったが、笑顔で接すると子どもたちも心を開いてくれ、笑顔になったのでとても嬉しかった。このことから、言葉が通じなくても良い関係を築くことができると改めて感じ、今後も人と関わる際には、笑顔を大切にしようと思った。また、小学生や中学生くらいの子供たちとは、バドミントンで遊んだり、折り紙を教えてあげたり、伝統的な踊りを教えてもらったりした。私は、男の子2人とずっと一緒にいたが、私の拙い英語でもきちんと聞いてくれて、バドミントンや折り紙を楽しむことができたのでとても嬉しかった。特に、折り紙が完成したときに嬉しそうな表情をしていたことや、男の子が怪我をしてしまったときに、抱っこして足を洗いに行かせると笑顔で“Thank you.”と言ってくれたことは、とても印象に残っている。今回 charity home に行っただけで、改めて人のあたたかさや、子どもたちの素直さを再確認することができた。さらに、私は将来、小学校教師になりたいと考えていたが、日本人学校など海外の子どもたちと関わる仕事もいいなと視野が広がり、真剣に自分の将来について考え直そうと思えた。

上述したように、学校や charity home をはじめとする様々な場面で、人と関わり、多くのことを吸収することができた。一人一人がみんな違う良さを持っていて、多くの人と関われば関わるほど、人の心は豊かになるのではないかと感じた。今回マレーシアに行ったことで海外の人ならではの独特な考えにも触れることができたので、今後は海外の人とのコミュニケーションも大切にして自分の視野を広げていきたいと考えた。